

2025年度一般選抜試験問題

小論文

【注意事項】

1. この問題冊子には答案用紙が挟み込まれています。試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始後、答案用紙の受験番号欄に受験番号を記入しなさい。
3. 問題冊子には問題が **1～2 ページ** に記載されています。落丁、乱丁および印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて監督者に知らせなさい。
4. 答案には、必ず鉛筆（黒、「HB」「B」程度）またはシャープペンシル（黒、「HB」「B」程度）を使用しなさい。
5. 解答は答案用紙の指定された場所に記入しなさい。ただし、解答に係のないことが書かれた答案は無効にすることがあります。
6. 問題冊子の余白は下書きに使用しても構いません。
7. 答案用紙はどのページも切り離してはいけません。
8. 答案用紙を持ち帰ってはいけません。

課題 以下の文章を読んで設問1～4に答えなさい。

世の中にはあたりまえとと思っていることが、実はそうではないことも多い。たとえば①今日という日はいつから始まるのか、とあらためて考えてみると、意外にむずかしい。午前0時なのか、0時1秒なのか。また、0時0秒5は今日なのか、昨日なのか。

まずは数字の世界で考えてみる。

時間の流れを1本の連続した直線で表し、その線上に1つの点を取り「1日の始点」とする。そこから右へ一定の間隔で点を取り1時間とすると、12番目の点が正午、24番目の点が「次の日の始まり」となり、前日には含まれない。したがって1日の始点は午前0時であり、終わりは23時59分59秒9999……と無限に24時に近づくが、24時そのものは翌日である。つまり1日は起点があって終点のない直線で表される。

また、暦法など日本の法律では、日替わりの時刻は「午前零時」と明記されていることから、今日の始まりは、時計の長針と短針が12の位置で重なった瞬間と解釈するのが妥当である。

ところが、世の中には、一般の社会の1日とは異なる1日で行動している人たちも大勢いる。身近なところでは鉄道がそうだ。24時間体制で列車を運行しているJRは別として、私鉄は始発から終電までを1日と扱っているために、時刻表には25時という一般にはなじみの薄い時刻が登場する。たしかに走っている列車の日付をどこで変えるかはむずかしい問題だし、昨日発の普通電車が今日発の急行に抜かれたりするのはややこしい。

また、マスコミも異なった時間体系をもっている業界だ。テレビ局は放送開始から終了までが1日である。昔は午前0時頃で放送が終わっていたため、あまり違和感がなかったが、最近では早朝まで続く深夜放送があるため、26時、27時という表現が使われている。録画撮りも頻繁で、^{ひんばん}現在時間と放送予定時間が交錯するためか、テレビスタジオでのあいさつは、朝でも深夜でも、いつでも「おはようございます」である。

しかし、人間は昔から午前0時を1日の始まりと考えていたのであろうか。太陽の南中時刻から次の南中時刻までを1日とする天文学の分野では、比較的近年まで正午を1日の始まりとしていた。イスラム暦では今日でも日没が日の替わり目だ。

歴史をさかのぼってみると、日の出を1日の始まりと考えていたこともあるし、江戸時代以前のが国では、日の替わり目を丑^{うし}の刻と寅^{とら}の刻の境目の午前3時頃としていた。丑は午前2時（または午前1時～3時までのあいだ）であり、寅は午前4時（または午前3時～5時までのあいだ）である。

しかしこれらの考えをあながち一笑に付すのは早計すぎる。講談に出てくる「草木も眠る」丑^{うし}三^{みつ}時は（ a ）から（ b ）であり（丑の刻を四分した、その第3番目）、世の中のほとんどの人たちが眠っている時間帯である。サマータイム*を実施している国々でも、サマータイムへの切り換えは、社会の混乱が最も少ない午前2時頃に行なっている。

②日の替わり目は、案外、江戸時代以前の午前3時が理にかなっているのかもしれない。

*夏に標準時刻を進めて、日照時間を有効に使おうとする制度

織田一朗「時計の針はなぜ右回りなのか」より改変して引用

設問1 下線部①について、「今日という日はいったいつから始まるのか、とあらためて考えてみると、意外にむずかしい」のはなぜか。その理由を60字以内で述べなさい。

設問2 空欄（ a ）と（ b ）に当てはまる時刻を答えなさい。

設問3 下線部②について、「日の替わり目は、案外、江戸時代以前の午前3時が理にかなっているのかもしれない」のはなぜか。その理由を50字以内で述べなさい。

設問4 日の替わり目（1日の始まり）は何時であるのが良いと思うか、あなたの考えを理由と共に400字以内で述べなさい。